

令和6年度 活動計画書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

特定非営利活動法人有明海ぐるりんネット

今年度の目標

有明海の魅力を観光資源として売り出す方策を考える

SDGs 該当目標 (11、14、15) コミュニティの実現、海の豊かさ 陸の豊かさも守ろう

東よか干潟交流塾(令和4年12月24日)での「有明海の魅力を観光資源として 売り出す方策を考える」に参加された方から、有明海沿岸域の観光をテーマにした活動の提案があり、多くの方の賛同を得て、今年度の目標を「有明海沿岸域の観光」とし、活動名「有明海の魅力を観光資源として売り出す方策を考える」とします。今年の有明海ぐるりんネットの主たる活動の一つとして、本事業で実施するシンポジウムを中心に据えます。

佐賀県が進めている「森川海っ人プロジェクト」は森・川・海を人がつなぐことを目的としています。異なる分野で活動する「有明海ぐるりんネット」会員の活動に積極的に参加し、森・川・海の「循環」のメカニズムを学ぶとともに、相互の事業を連結した新たな観光資源の開発を目指します。その一環として、「森が育んだ、美味しい天然水『い・ろ・は・す』」を販売する日本コカ・コーラ(株)が募集した「みんなで森を育て、水源を守るために『水源保全活動団体の募集』」事業より「特定非営利活動法人有明海ぐるりんネット」が『有明海・筑後川の魅力を発信する活動を推進、持続的な生態系の保全と活用を目指す』団体として、「水源・森林保全に関わる全国15団体」の一つとして、寄付先に指定されました。有明海ぐるりんネットの会員諸氏の活動内容を組み合わせて、事業を推進していければと考えています。

2022-2023年に続き、2023-2024年漁期も少雨と大型珪藻による栄養塩不足により大規模な色落ち被害が発生し、例年の半分の生産枚数にとどまり日本一の座を昨年に続き兵庫県に譲り2位に甘んじました。主たる原因が少雨による栄養塩不足にあることはあきらかですが、養殖ノリがプランクトンとの栄養塩の取り合いに敗れたことも原因の一つと考えられています。プランクトンを捕食するアサリ、サルボウ貝等の二枚貝が激減しているなか、牡蠣は寧ろ増える傾向になります。現時点で、有明海における栄養塩の循環を促し、有明海を健全なものにする方法は二枚貝の増殖以外は現実的ではなく、特に牡蠣礁復活しかありません。当法人が9年間続けてきた牡蠣礁復活のための「竹切・竹立て」事業を「い・ろ・は・す」寄付事業の一環として今年も実施し、有明海環境の改善に寄与します。

①有明海の魅力を探り、広報する活動

※会員交流定例会

定例会：隔月1回(奇数月第2木曜日)基調講話と討議

外部講師も含めた基調講演と終了後の交流会(食事会)

※東よか干潟交流塾

東よか干潟ビジターセンター・NPO 法人有明海ぐるりんネット・佐賀大学浅海域プロジェクト協働による市民向け教養講座として開催

隔月 1 回（偶数月第 4 土曜日）基調講演と意見交換会

②有明海の新たな魅力創生に寄与する活動

※「有明海の魅力を観光資源として売り出す方策を考える」シンポジウム

11 月 23 日（土）市民向け公開シンポジウム

11 月 24 日（日）環有明海観光連合との交流会とエクスカーション

佐賀アリーナ会議室または、佐賀市民活動プラザ 7 階大会議室

○交流会とエクスカーション

佐賀市、大牟田市、鹿島市、太良町、小城市、嬉野市、島原市、長洲町、白石町各加盟協会より 10 名程度、佐賀市及び鹿島市ラムサール条約湿地ビジターセンター：こどもラムサールクラブより数名参加

○エクスカーション ラムサール条約登録地の見学など

【目的】コロナ禍が終焉し、全国的に再び観光への関心が高まっています。有明海沿岸地域においても、九州佐賀国際空港、長崎新幹線、有明海沿岸道路の延伸等のハード整備が進み、さらには、各地のイベント復活による交流人口の増加等、地域の賑わいと活力が出てきている状況です。このような好機を捉え、人口 260 万人弱を擁する福岡都市圏の活力の活用も念頭におきながら、有明海沿岸地域の連携を踏まえた観光振興を考えるためのシンポジウムを開催します。

【期待される効果】シンポジウムの参加者や関係者が有明海沿岸域の観光振興の意義と重要性を共有し、さらなる持続可能な観光地づくりに貢献する機運を醸成するとともに、近隣の 4 県市町村住民をはじめ多くの観光客に親しまれる有明海沿岸地域を創造していく契機とする。

③森・川・海の循環を学ぶ事業

『い・ろ・は・す』寄付事業活動内容

特定非営利活動法人 有明海ぐるりんネット

- 私たちが主たる活動の場としている有明海の豊かさは、森や平野が育てた栄養分を、筑後川をはじめとする多くの河川が運び入れることによって成り立っています。
- 特異で豊かな生態系を誇った有明海も各種の課題を抱えています。最大の課題は、夏場の赤潮とそれに伴う大規模な貧酸素水塊です。貧酸素が発生すると多くの生物が打撃を受け生態系が破壊されてしまいます。有明海再生に向けた多くの取り組みがなされていますが、決定的な方策は確立していません。
- 私たちは二枚貝の持つ濾水力に期待し、牡蠣礁復活事業に取り組んでいます。陸域で厄介者になった竹林の竹を切って干潟に立て込み、稚貝を増殖する作戦です。佐賀県有明海再生・自然環境課の現地調査によると、竹を立て込んだ干潟の下流部に広大な干潟が発達し、再生事業が大きな成果を上げていることが証明されています。

NPO 法人有明海ぐるりんネット会員が行っている事業との協働事業

※ 牡蠣礁復活事業「厄介者竹を切って、干潟に立て込み牡蠣礁復活させる」

NPO 法人嘉瀬川交流軸・久保田町づくり協議会との協働事業

- 1) 竹切り作業 令和6年6月2日(日) 石井樋公園竹林(佐賀市大和町尼寺)
- 2) 竹立て作業 令和6年8月4日(日) 嘉瀬川河口沖濤筋干潟

※ 「いきものと緑のサポーターミーティング」

NPO 法人 SATOMORI

令和7年3月 さが水ものがたり館会議室(佐賀市大和町尼寺)
テーマ:「さかの自然環境の未来」について考える

※ 「佐賀城下のクリークを活かしたまちづくり」

NPO 法人さがクリークネット

佐賀市街地の水路(クリーク)における活動

※ 「出張水族館・ミニアクアリウム」展示

佐賀大学公認学生団体 Green-Nexus

令和6年9月29日(日) さが水ものがたり館会議室

※ 「山間地域における小水力発電による地域活性化」

松隈地区の事業

2. 活動の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動にかかる事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益者対象の範囲及び人数	支出額 (千円)
①有明海に関連した環境教育及び生涯教育に関する事業	有明海ぐるりんネット 通常定例会	原則として隔月1回 (第2木曜)	MIZ・P-CSR 研究所 佐賀市民 活動プラザ	6	会員 20 県内・県外 (関係者)	20
	出張定例会 東よか干潟ビジターセ ンター「ひがさす」 コラボ 東よか干潟交流塾	未定 隔月1回 (第4土曜)	東よか干潟 ビジターセ ンター	6	県内・県外 各25名程度	
②有明海沿岸域の地域連携及び地域づくりに関連する事業	森・川・海の循環を学ぶ 地域交流会 い・ろ・は・す寄付事業 (計画中)	令和6年5 月～令和7 年	計画中	20	会員 20 交流関係者 30名程度	100
	「有明海の魅力を観光 資源として売り出す方 策を考える」シンポジ ウム	11月23日 (土)～24 日(日)	佐賀市民活 動プラザ大 会議室	20	県内・県外 各100名程 度	280
	カキ礁復元 竹切り出し作業 嘉瀬川交流軸 久保田町づくり協議会 ぐるりんネット共催	6月2日 (日)	佐賀市 水ものがた り館周辺	15	県内、県外 (不特定) 50名程度	10
	カキ礁復元 竹立て作業 嘉瀬川交流軸 久保田町づくり協議会 ぐるりんネット共催	8月4日 (日)	佐賀県 有明海 海域	15	県内、県外 (不特定) 50名程度	20
③有明海及び有明海沿岸域の生活、文化、観光等の向上、振興に関する事業	公式サイト更新作業	4月～	佐賀県 福岡県	5	国内外 (不特定)	60